

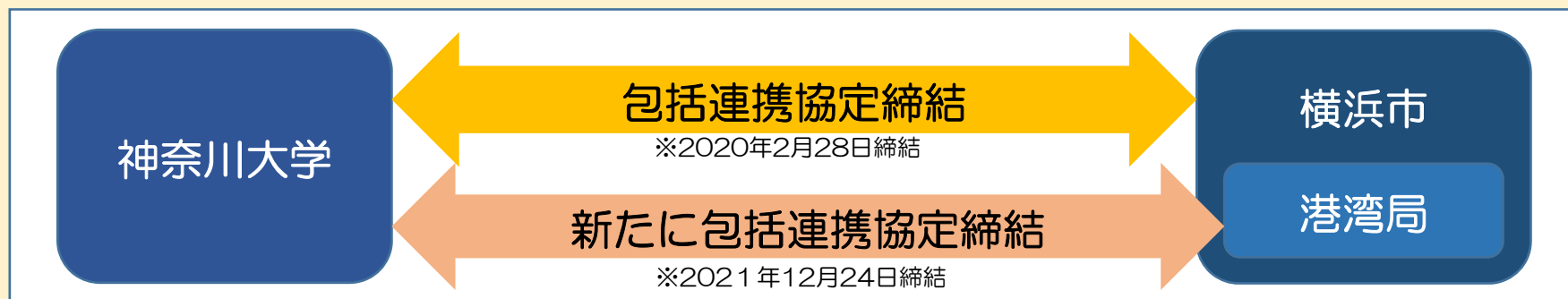
## 1. 地域連携の好事例

本学と横浜市は、産学官民の一層の連携により、新たなイノベーションを創発し、SDGsの推進を図るとともに、高度な社会的課題・地域課題の解決し新たな価値を創造すること、また、お互いが持つ資源を活用し、地域の更なる活性化や市民サービスの向上を図ることを目的として、**2020年2月28日**に包括連携協定を締結しております。また、当該取組を臨海部において更に加速させるべく、**2021年12月24日**に横浜市港湾局とも新たに相互協力協定を締結いたしまして、「脱炭素社会の実現」・「横浜港の機能強化」等、横浜市が掲げる様々な具体的課題の解決に向け連携を実施する所存です。

【横浜市の取組：横浜港のカーボンニュートラルポート形成について（横浜市作成資料から抜粋）】

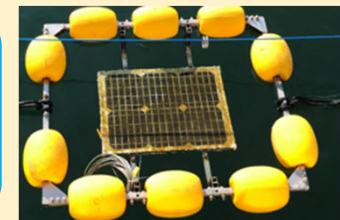
脱炭素社会の実現には、水素等次世代エネルギーの供給コスト低減と需要拡大の好循環が不可欠です。港湾エリアにおいて、輸入・貯蔵・供給・利用の水素等のバリューチェーンを構築していきます。

具体的には、①水素等次世代エネルギーの輸入拠点化、②自立型発電施設の確保（停泊中のコンテナ船への陸上電力供給等）、③荷役機械、トレーラー等への燃料電池搭載などを進めていきます。



### 具体事例

横浜市は現在、横浜の港湾に停泊する船舶への陸上電力供給を目指している。その供給方法の一つとして本学が研究を進めている海中設置型太陽光発電も候補（可能性のひとつ）となっており、研究を進めるための実験場の提供等、連携方法を模索中。



## 2. 地域連携における課題

1. にて記載したとおり、横浜市等と連携を図っていく上で、現在本学が感じている課題は以下の通りです。

### 課題①

横浜市が掲げる大規模な取組に対する研究実施の際、設備や資金面で対応が難しい場面があり、市の委員会等におけるスポットでのアドバイス等に終始してしまう場合が多い。

### 課題②

研究者（教員）は授業等の他業務を抱えており、研究に専念することが難しく、地域や企業の求めるスピード感に合わせた研究実施が難しい。

### 課題③

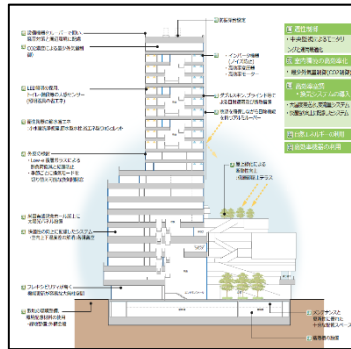
大規模自治体の場合、1つの課題に対し複数部局が類似した取組を実施していることがあるが、大学では、それぞれの取組に個別に応えるのが難しいことがある。

# 神奈川大学

## 3. その他特徴的な取り組み

### エコキャンパス

本学のみなとみらいキャンパスでは「横浜市建築物環境配慮制度」に基づき、建築物の建設から供用後に至るまでの長期に渡り、建築物が環境に与える負荷を低減するため、エコキャンパスの構築に取り組んでおり、様々な取り組みにより、「省エネルギー」と「CO2排出量の削減」を実現し、建築物総合環境性能評価システム（CASBEE横浜）においてはAランクを取得しました。



### テクノフェスタ

本学では教員や学生の研究・技術の共有の場および物作りの喜びを体験する場として「テクノフェスタ」というイベントを企画しております。当イベントは年に1度開催しており、毎年テーマを定め、テーマに沿った内容の研究を進めている教員や学生が展示会形式で来場いただいた企業等に対して研究発表を行います。今年度のテーマは社会ニーズ等を考慮し、「エネルギー・環境」を設定しております。



## 4. 地域ゼロカーボンワーキンググループに期待すること、幹事機関・事務局へのリクエスト

カーボン・ニュートラルに向けた各種取組に関して、タイムリーに情報発信をいただけると幸いです。

取組の概要等の共有は勿論のこと、地域連携を実施する上で作成した資料（企画書等）も含めて、可能な範囲で共有いただけると幸甚に存じます。

## 5. 地域ゼロカーボンワーキンググループへの意気込み・積極的な一言

産官学活動において本学はまだまだ発展途上の段階ではございますが、参加大学から刺激を受け、学内にフィードバックすることで、取組を加速したい。